高志の国
文学館
KOSHINOKUNI
Museum of Literature

高志の国文学館 年報

令和２年度

高志の国文学館 年報

令和２年度

目　次

Ⅰ　令和２年度のあゆみ

令和２年度のあゆみ…… 4

Ⅱ　事業内容

1　展示活動…… 6

2　資料概況…… 18

3　教育・普及事業…… 19

4　高志の国文学館友の会…… 30

Ⅲ　管理・運営

1　利用状況…… 32

2　施設の概要…… 34

3　機構…… 35

4　組織…… 36

Ⅳ　資料

沿革…… 38

Ⅴ　関係法令

関係法令…… 42

Ⅰ　令和２年度のあゆみ

令和2年度　高志の国文学館のあゆみ

年　月　日	事　　項
令和２年４月５日	観桜の集い2020（中止）
４月11日	**企画展「生誕170年　ラフカディオ・ハーンの共感力―発見、探求、そして発信へ」（７月５日まで）**
６月19日	クローズアップコーナー「「戦後の富山俳壇」富山文学地図(2)」（令和３年６月14日まで）
同日	特別コレクション室「翁久允と吉井勇・川田順―富山を訪れた歌人たち」（令和３年６月14日まで）
７月４日	文学講座（大学連携シリーズ）（12月６日まで　全４回）
７月26日	**企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」（９月13日まで）**
８月２日	読書感想文サポート講座
８月８日	第７回サブカルチャー講座―アフレコチャレンジ教室
８月22日	第７回サブカルチャー講座―イラスト体験教室
９月５日	講演会「家持のまなざし―富山の風土を見つめる―」
９月６日	令和２年度「高志プロジェクト」認定証交付式
９月12日	朗読と音楽の夕べ2020（11月28日まで　全５回）
９月13日	文学講座（郷土と文化シリーズ）（12月12日まで　全５回）
９月20日	**企画展「米国アカデミー賞監督　滝田洋二郎 展」（11月30日まで）**
９月20日	文芸サロン（主催：日本ペンクラブ富山の会）（令和３年３月21日まで　全３回）
10月４日	観月の集い2020
11月29日	文学講座（特別講座）座談会「芥川賞受賞作『首里の馬』を読む」
12月３日	「高志の国文学」情景作品コンクール入賞作品展示（12月17日まで）（主催：富山県教育委員会）
12月19日	書道パフォーマンス（中止）
令和３年１月16日	書道パフォーマンス
１月24日	高校生による朗読会（中止）
１月30日	文学講座（越中万葉・詩歌シリーズ）（３月13日まで　全３回）
２月６日	**企画展「久泉迪雄の書斎から― “ 悠かなり 富山の文化 ”」（３月27日まで）**
２月10日	ミュージアムコンサート

II 事業内容

1．展示活動

□常設展示

概　要

常設展示では、当館の収蔵資料を中心に、万葉歌人・大伴家持の越中万葉から現代文学に至るまで、富山県にゆかりのある作家や作品の魅力を紹介しています。また、文学だけでなく、漫画や本県ゆかりの先人についても紹介しています。平成29年４月には常設展示室のリニューアルを行い、作家の略歴等を紹介する大型タッチパネル、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当てて紹介する「クローズアップコーナー」、越中万葉を映像と音声で鑑賞できる映像ブース、寄贈・寄託を受けた作品や資料を中心に紹介する「特別コレクション室」が新設されました。

＜ふるさと文学の回廊＞

富山県ゆかりの代表的な文学者23人を、パネルや直筆原稿、デジタルサイネージなどで紹介。また、回廊内に設置した４つのデジタル万華鏡では、大伴家持の生涯や山岳文学、富山県ゆかりの漫画家や先人について紹介しました。

「ゆかりの文学者たち」コーナー

＜ふるさと文学の蔵①＞

古代・中世の富山県ゆかりの文学作品を紹介するとともに、大書架「知の蓄積」では、富山県ゆかりの書籍や寄贈された資料を展示しました。

クローズアップコーナー

体験型装置「万葉とばし」及び映像ブースでは、大伴家持が詠んだ歌を音と映像で紹介。「クローズアップコーナー」では、富山県ゆかりの作家や作品に焦点を当て、半年ごとに展示替えを行い紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵②＞

「ふるさと文学年表」により、万葉の時代から続く富山の文学について、その変容と発展を時代背景とともに紹介しました。

＜ふるさと文学の蔵③＞

富山県ゆかりの漫画家をパネルや愛用品とともに紹介。デジタル装置「不思議な本」では、漫画・アニメーションの制作工程を学ぶことができる。「特別コレクション室」では寄贈・寄託を受けた作品や資料をはじめとして、年に二度、春と秋にテーマを設定して紹介。

このほか、富山大学附属図書館に所蔵されているヘルン文庫（小泉八雲の旧蔵書）資料や、富山が輩出した先人について紹介しています。

「ゆかりの漫画家」コーナー

特別コレクション室

□展示構成

令和3年3月31日現在

展示場所	展示の名称	展示の概要	
導入展示	文学鳥瞰地図	富山県内に点在する文学ゆかりの地等を検索	
	ふるさと文学万華鏡	大伴家持の生涯や山岳文学の歴史をデジタル絵巻で紹介	
ふるさと文学の回廊	「ゆかりの文学者たち」コーナー	パネル	デジタルサイネージ
		源氏鶏太 堀田善衞 柏原兵三 木崎さと子 宮本　輝 辺見じゅん 久世光彦	筏井竹の門 岩倉政治 遠藤和子 大井冷光 翁　久充 角川源義 小寺菊子 佐伯彰一
			高島　高 瀧口修造 田中冬二 田部重治 暾　文兵 新田次郎 前田普羅 三島霜川 横山源之助
	ふるさと文学万華鏡	富山県ゆかりの漫画家や先人を映し出すデジタル万華鏡	
ふるさと文学の蔵①	大書架「知の蓄積」	富山県ゆかりの書籍や寄贈資料を展示	
	万葉とばし	大伴家持が越中で詠んだ歌を音と映像で紹介する体験型装置	
	映像ブース	大伴家持の歌を現代語訳、解説と映像で紹介	
	「令和」記念コーナー	新元号「令和」を記念して設置	
	古代の文学／中世・近世の文学	万葉集、立山曼荼羅等を紹介	
	クローズアップコーナー	「戦後の富山歌壇」／ 「「戦後の富山俳壇」富山文学地図(2)」	
ふるさと文学の蔵②	ふるさと文学年表	万葉の時代から現代に至るまでの富山県ゆかりの文学を紹介	
ふるさと文学の蔵③	「ゆかりの漫画家」コーナー	藤子不二雄Ⓐ 藤子・F・不二雄 山根青鬼 山根赤鬼 まつもと泉 原　秀則 花咲アキラ	
	特別コレクション室	「おわら風の盆の画家　林秋路特集」／ 「翁久允と吉井勇・川田順―富山を訪れた歌人たち」	
	ヘルン文庫コーナー	ラフカディオ・ハーン（小泉八雲） 南日恒太郎	
	「越中の先人」コーナー	安田善次郎 浅野総一郎 高峰譲吉 椎名道三 稲塚権次郎 馬場はる	

（注1）ゆかりの文学者および先人の一部について、関係の機関や個人より実物資料を借用のうえ展示した。
（注2）ヘルン文庫の展示については、富山大学附属図書館の協力を得て、所蔵資料の借用・展示を行った。令和2年度は4回の展示替えを行った。

□クローズアップコーナー

「戦後の富山俳壇」富山文学地図(2)

会　　期／令和２年６月19日㈮～
令和３年６月14日㈰
担　　当／永井　清、生田美秋
出品点数／60点

立山のかぶさる町や水を打つ	**前田普羅**
とびからすかもめもきこゆ風ゆきげ	**金尾梅の門**
父祖の地や蜻蛉は赤き身をたるる	**角川源義**

趣旨・総括

戦禍は県内の俳壇に大きな打撃をもたらしました。しかし、俳句創作の動きはすぐに芽吹き、「ホトトギス」の高浜虚子に師事した前田普羅は、空襲で蔵書、家財の一切を失い、津沢町の中島杏子宅に仮寓し、二十一年一月「辛夷」を復刊しました。同人には橋爪巨籟、山口花笠、船平晩紅、中島杏子、福永鳴風らが加わりました。

大須賀乙字、臼田亜浪に影響を受けた金尾梅の門も仮住居である薬草園管理舎から二十二年一月、「古志」を創刊(のちに「季節」に改題)しました。同人には中村炬子、黒田晩穂、岩木安清らが参加しました。

「辛夷」「古志」は、県内の俳壇の二大結社となって、富山の俳句運動を牽引していきました。

富山出身で角川書店の創業者である角川源義は、二十七年に日本の戦後俳句隆盛の原動力となった雑誌「俳句」を創刊し、富山では昭和五十年には、会派を超えた俳句の交流と発展をめざして富山県俳句連盟が結成されました。

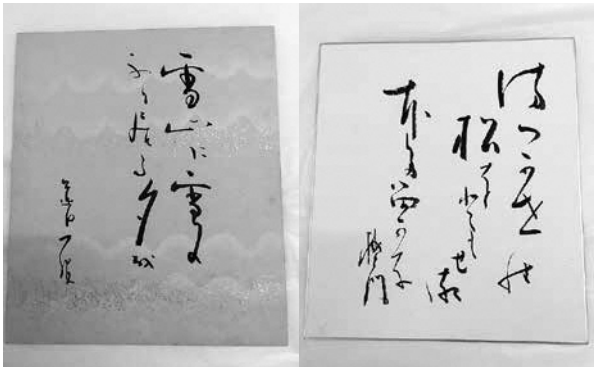
本展では、戦後の富山俳壇を代表する俳人たちの「富山を詠んだ俳句23選」を中坪達哉(富山県俳句連盟会長)の選・解説でたどると共に、富山の俳句に関する資料を一堂に展観しました。

展示構成

1　前田普羅の俳句山脈と「辛夷」
2　金尾梅の門と「季節」
3　棟方志功と前田普羅
4　角川源義と俳諧誌「河」
5　富山県俳句連盟の結成―県俳壇の交流
6　俳誌―県内結社と全国結社の主な俳誌
7　現代の俳人たち

主な展示資料

前田普羅　色紙「暁や一朶(いちだ)の海苔はさかのぼる」
中島杏子　色紙「おほらかに堰のり越すや春の水」
棟方志功　「版画色紙」
金尾梅の門色紙「はだら野や満月をとぶゆふがらす」
黒田晩穂　短冊「鯛酒をのむ冬の海越ゆる如」
山口花笠　短冊「砺波野の家ほつほつと花になり」
河東碧悟桐短冊「越中五箇山中　筧またぎ行く里の金蓮花など」
前田普羅　色紙「神の留守立山雪をつけにけり」
金尾梅の門色紙「まつかぜの松をともせるほたるかな」
現代の俳人たちの色紙(黒田晩穂、福永鳴風、中坪達哉)
県内に発行所を置く結社の俳誌(「辛夷」「古志」「喜見城」「寒潮」「荒海」「いわせの」「清流」「くらげ」)



色紙　前田普羅（左)、金尾梅の門（右）

展示風景

□特別コレクション室

「翁久允と吉井勇・川田順―富山を訪れた歌人たち」

会　　期／令和２年６月19日㊏～
令和３年６月14日㊊
前期第一期
令和２年６月19日㊏～９月14日㊊
前期第二期
令和２年９月16日㊌～12月28日㊊
後期第一期
令和３年１月４日㊊～４月５日㊊
後期第二期
令和３年４月７日㊌～６月14日㊊
担　　当／小林加代子
出品点数／67点

趣旨・総括

現在、高志の国文学館では、公益財団法人翁久允財団の協力を得て、翁久允旧蔵資料の調査を行っています。今回の展示では、その調査報告の一環として、翁久允と、富山歌壇に大きな影響を与えた二人の歌人―吉井勇と川田順との親交を伝える資料を紹介しました。

翁　久允（おきなきゅういん）（1888～1973）は、現在の立山町出身の小説家・ジャーナリストです。アメリカで約18年を過ごし、帰国して『週刊朝日』の編集に携わった後、昭和11年（1936）に富山で郷土誌『高志人』を創刊、生涯を通じて刊行を続けました。

吉井勇（1886～1960）と川田順（1882～1966）は、戦時中、雑誌統合により『高志人』が『高志』と改称して刊行された時期を中心に、短歌や文章を寄稿しました。その背景には、小又幸井（こうい）（1900～1990）や藻谷（もだに）銀河（1900～1945）をはじめとした富山の歌人たち、そして翁久允との交友がありました。

吉井勇は、昭和19年（1944）に初めて富山を訪れました。富山へ旅したばかりでなく、川崎順二、小谷契月らの支えを得て、昭和20年（1945）２月から８か月間、八尾に疎開しました。富山での詠草は、歌集『寒行』、『流離抄』に収められています。

川田順は、昭和10年（1935）７月、小又幸井らと立山に登り、「立山行」54首を発表し、歌集『鷲』に収めました。昭和18年（1943）には、大川寺公園に「鷲の歌」の歌碑が建立されています。その後、戦前戦後を通じて小又幸井、翁久允らとの交友は続きました。

今回の展示では、期間を前後期に分け、前期は吉井勇、後期は川田順を中心とした構成とし、それぞれ第一期は『高志人』や『高志』に掲載された短歌や文章の自筆原稿、第二期は翁久允に宛てた書簡を中心に、掲載誌、歌集などを展示しました。あわせて、『高志人』という場を介した、富山の歌人たちとの関わりについて紹介しました。

前期第一期の展示

前期第二期より吉井勇書簡の展示

後期第一期の展示

⑴企画展「生誕 170 年　ラフカディオ・ハーンの共感力―発見、探求、そして発信へ」

会　　期／令和２年４月11日㈯～７月５日㈰
※新型コロナウィルス感染拡大の影響により、６月22日㈪までだった当初の会期を延長。このうち４月18日㈯～５月10日㈰は臨時休館。
主　　催／高志の国文学館
共　　催／国立大学法人富山大学、北日本新聞社
後　　援／ＮＨＫ富山放送局
特別協力／小泉家、小泉八雲記念館、松江市立中央図書館、焼津小泉八雲記念館、池田記念美術館、富山八雲会
担　　当／生田美秋（統括）、綿引香織（主務）
観覧者数／1,213人
出品点数／261点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

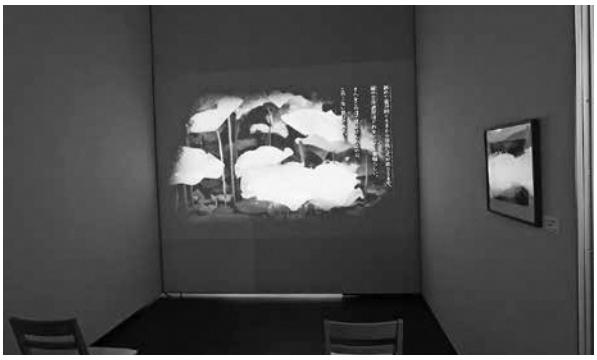
趣旨・総括

「耳なし芳一」「雪女」「むじな」など、私たちにとってなじみ深い怪談の作者であるラフカディオ・ハーン（1850～1904）。日本人女性と結婚して「小泉八雲」と名乗ったことでも知られています。母の国ギリシャで生まれ、父の国アイルランドで幼少期を過ごし、アメリカで新聞記者として文筆活動を始めたハーンは、40歳になる明治23年（1890）に初めて来日し、亡くなるまでの14年間に、紀行文、随想、文化論、民間伝承や古典に基づく再話文学など、日本に関する数々の著作を残しました。そこには、日本での生活を通じて日本の文化・習俗・精神を発見していった彼の、作家としての鋭い観察眼がうかがえると同時に、異文化や他者への温かい共感力が息づいています。

本展では、自身の体験に基づく日本文化論、日本の物語をもとにした文学作品、日本の学生たちに語った文学論等を通じて、開かれた精神をもつハーンの、共感力豊かな文学の世界を探ることを目指しました。あわせて、富山大学が所蔵するハーンの貴重な蔵書《ヘルン文庫》について紹介し、ハーンの作品を朗読で楽しむことができる映像コーナーを設けました。

序　章「コスモポリタン　ハーン―ギリシャから日本まで」
第１章「日本人の美質の独自の発見」
第２章「語りの文芸の限りなき探求」
第３章「教師ハーンからのメッセージ―文学を志す若者たちへ」
終　章「ハーンの遺したもの　　ヘルン文庫と富山の人びと」

序章　展示風景


第１章　朗読映像「日本の庭にて」

第２章　展示風景

□関連行事

① 記念講演

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
4月11日(土)	小泉凡氏(小泉八雲記念館館長、焼津小泉八雲記念館名誉館長)	「オープン・マインドで見た日本の美」	当館研修室101	中止

② 関連講座

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
4月26日(日)	池田雅之氏(早稲田大学名誉教授)	「ラフカディオ・ハーンの共感力―『日本の面影』を旅する」	当館研修室101	中止

③ 関連講座

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
5月5日(火・祝)	吉田泉氏(富山県芸術文化協会名誉会長)	「ライブ ハーン先生東大講義―日本文学の未来のために」	当館研修室101	中止

④ 関連講座（大学連携講座）

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
5月16日(土) →7月4日(土) に延期	中島淑恵氏(富山大学人文学部教授)	「ラフカディオ・ハーンとフランス文学」	オンライン および当館研修室101	178人

※ビデオ会議アプリ「Zoom」によるオンライン講座として実施。

⑤ 記念イベント「語り琵琶　耳なし芳一」

開催日	出演者	会　場	参加者数
5月23日(土)	伊藤哲哉氏(俳優、語り琵琶)	当館研修室101	中止

⑥ 関連講座

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
5月30日(土)	マリ・クリスティーヌ氏(東京女子大学特任教授、元国連ハビタット親善大使)	「小泉八雲はなぜ富山に」	当館研修室101	中止

⑦ 紙芝居（A)、紙芝居＋朗読（B)

開催日	出演者	作　品	会　場	参加者数
(A)5月9日(土) (B)6月13日(土)	富山八雲会	(A)「おだんごをなくしたおばあさん」「むじな」／(B)「若返りの泉」(紙芝居)、「耳なし芳一の話」「おしどり」(朗読)	当館ライブラリー コーナー	中止

⑦ テーマ別ミニ解説「ハーンこぼれ話」

開催日	出演者	テーマ	会　場	参加者数
(A)5月9日(土) (B)6月6日(土) (C)6月6日(土)	富山八雲会	(A)「ハーンに語った女性たち」 (B)「明治のお雇い外国人の共感力」 (C)「科学者？ハーン」	当館ライブラリー コーナー	中止

⑨ 担当学芸員によるギャラリートーク（展示解説）　→中止

【開催日】 4月26日(日)、 5月16日(土)、 6月13日(土)

⑵企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」

会　　期／令和２年７月26日㈰～９月13日㈰
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本放送
後　　援／富山新聞社
特別協力／角野栄子オフィス
協　　力／こどもの広場、ポプラ社、福音館書店
担　　当／生田美秋（総括）　旦尾紘一（主務）
観覧者数／4,469人
出品点数／250点
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

角野栄子は、幼き日における生母との死別、戦争による疎開生活、自費移民としてのブラジル渡航を経験したのち、大学時代の恩師の薦めを得て、34歳で執筆を始めました。苦しみながらも何度も書き直すうちに、書くことが本当に好きな自分を発見し、次第に書く楽しさに目覚めていきます。

「自分が楽しくなければ、読む人だって楽しくないにちがいない」との思いで自由な発想で書き続けた作品たちは、胸躍るような魅力に溢れ、読む者の想像力を刺激し、長年にわたり幅広い世代から親しまれています。

児童文学への永続的な寄与に対し国際児童図書評議会は2018年、「国際アンデルセン賞・作家賞」を贈呈し、角野は、まど・みちお、上橋菜穂子に続く日本人３人目の受賞者となりました。

受賞を記念して行う本展では、代表的作品「魔女の宅急便」と「アッチ・コッチ・ソッチの小さなおばけシリーズ」を取り上げ、作品世界のイメージ再現や挿絵原画などにより、「魔女」と「おばけ」の世界を展開しました。

また、角野が世界中を旅して集めた魔女人形や「魔女の宅急便」の草稿などの貴重な資料によって創作の秘密に迫るほか、「国際アンデルセン賞」の角野の受賞スピーチを紹介し、物語の持つ力や作品に込められた思いについて掘り下げました。

関連イベントでは、画家の佐竹美保氏によるワークショップ「描いてみよう、わたしは魔女―なにに乗って飛ぶ？」は新型コロナ感染拡大防止のため中止になりましたが、会期中に募集した「ねえねえ聞いて！魔女への手紙」、「あったらいいな！私の食べてみたいおばけ料理」、「みんなに見せて！トヤマ　マジョ　コレクション」については、応募作品を会場内に掲示したりスライド上映を行ったりすることができ、作家や作品に対する理解が深まりました。そのほか、文学館に併設するレストラン「シェ・ヨシ」の毛利義信シェフが「小さなおばけシリーズ」に登場するおばけ料理をランチボックスにして再現し、作品世界を味わうことができました。

導入部　展示風景

第１章「魔女の世界」　展示風景

第２章「おばけの世界」展示風景

第３章「角野栄子　創作のひみつ」展示風景

国際アンデルセン賞（メダル・賞状）

展示風景

□関連行事

① ワークショップ

開催日	講　師	内　容	会　場	参加者数
8月1日(土)	佐竹　美保　氏(画家)	「描いてみよう、わたしは魔女―なにに乗って飛ぶ？」	当館研修室101	中止

② 作品募集

【A】ねえねえ聞いて！魔女への手紙　［応募総数］12点
【B】あったらいいな！私の食べてみたいおばけ料理　［応募総数］73点
【C】みんなに見せて！トヤマ マジョ コレクション 2020　［応募総数］248点

③ コラボレーション企画「アッチ Café de シェ・ヨシ」

文学館併設のレストラン「シェ・ヨシ」にてテイクアウトメニューとして「アッチのびっくり箱ランチ」を事前予約販売。

④ 企画展担当者による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】 8月11日(火)、8月30日(日)、9月12日(土)

⑶企画展「米国アカデミー賞監督　滝田洋二郎 展」

会　　期／令和２年９月20日㈰～11月30日㈪
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、チューリップテレビ
特別協力／滝田洋二郎
協　　力／エー･チーム､富山県ロケーションオフィス
担　　当／生田美秋（総括）　大川原竜一（主務）
観覧者数／２,451人
出品点数／304点（パネル・バナーを含む）
印 刷 物／チラシＡ４判　　ポスターＡ１判

チラシ　表

チラシ　裏

趣旨・総括

「バッテリー」や「天地明察」など話題の文学作品をいち早く映像化して文芸映画の復権にいどむ、富山県出身の映画監督・滝田洋二郎。二〇〇八年公開の映画「おくりびと」では、日本の作品ではじめて米国アカデミー賞外国語映画賞を受賞するという快挙をなしとげます。本企画展は、代表作を通して滝田監督の映画づくりの現場と作品の魅力を紹介するとともに、監督の映画製作にかける情熱と想いに、インタビュー映像でせまりました。

文学館ロビーにおけるエントランス展示では、来館者が臨場感を味わえるように、監督愛用のディレクターズチェアとアングルファインダーに、東映東京撮影所より借用したフィルムキャメラやスポットライトなどをくわえてロケ現場の風景を再現しました。また、映画「バッテリー」を例にクランクインからクランクアップまでの映画製作の流れを紹介したパネルや、主演の林遣都さんからのメッセージを掲示しました。

本企画展の目玉となったのは、米国アカデミー賞外国語映画賞のオスカー像です。企画展示室内の映画「おくりびと」のコーナーにて特設し、富山初展示となりました。

そのほかに展示室内においては、「天地明察」「ラストレシピ～麒麟の舌の記憶～」「北の桜守」をクローズアップし、台本やデザイン画、衣装・小道具など映画製作にかかわる資料を展観しました。北の桜守パーク［稚内市映画北の桜守資料展示施設］で展示されている、江蓮てつ役の吉永小百合さんが着用したスーツも借用公開できました。くわえて、監督自らが出来事や思い出を記した「自作略年譜」パネルを掲示したほか、監督のこだわりを肉声で伝える企画展オリジナルのインタビュー映像を流しました。

企画展示室内は、映画のセットに入りこんだようなワクワクする会場に設えて、来館者に楽しみながら映画製作を知ってもらう展示としました。映画「天地明察」に登場する「渾天儀」のイメージディスプレイや、鳥海山をバックにチェロを弾く主人公になりきる、映画「おくりびと」の撮影スポットを設けました。本企画展では、映画づくりの舞台裏がうかがえる展示物をみるのみならず、映画展ならではの展示会場の造作により楽しい展示を展開し、滝田作品の魅力を紹介しました。

関連行事としては、開会記念トークイベントで、富山市出身の作家・山内マリコ氏を聞き手にむかえ、滝田監督に滝田映画のこと、富山と映画のことなどを語っていただきました。また､企画展の開会に先立ち、「この場所でこんなシーンを撮りたい」という内容で富山の風景写真とそれにまつわるストーリーを募集し､優秀作品には､「滝田洋二郎監督「あなたのワンシーン」企画を語る」のイベントにおいて監督よりコメントを頂戴しました。さらに、映画「ラストレシピ～麒麟の舌の記憶～」を対象に､「映画を観る､映画を創る」というテーマで滝田監督と県内の高校生が対談するイベントも開きました。

エントランス展示　展示風景

企画展示室内「渾天儀」イメージディスプレイ　展示風景

映画「ラストレシピ～麒麟の舌の記憶～」コーナー　展示風景

開会式にて（滝田洋二郎監督とオスカー像）

滝田洋二郎監督　開会記念トークイベント

□関連行事

① 滝田洋二郎監督　開会記念トークイベント

開催日	出演者	テーマ	会　場	参加者数
9月20日（日）	滝田　洋二郎　氏 聞き手／山内　マリコ　氏 （作家、富山市出身）	「滝田映画のこと、富山と映画のこと、エトセトラ」	当館ライブラリーコーナー	75 （定員80名）

② 滝田洋二郎監督「あなたのワンシーン」企画を語る

開催日	会　場	参加者数
10月24日（土）	当館研修室101	35 （定員35名）

③ 滝田洋二郎監督＆県内高校生対談イベント

開催日	テーマ	会　場	参加者数
10月25日（日）	「映画を観る、映画を創る」	当館研修室101	21 （定員30名）

④ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】 9月26日（土）、10月24日（土）、11月7日（土）

⑷企画展「久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”」

会　　期／令和３年２月６日㈯～３月27日㈯
主　　催／高志の国文学館
共　　催／北日本新聞社、富山テレビ放送
特別協力／久泉迪雄
協　　力／一般社団法人富山県芸術文化協会、学校法人富山国際職藝学園、高岡市美術館、富山県歌人連盟、富山県美術館
担　　当／生田美秋（総括）、小林加代子（主務）
観覧者数／1,251人
出品点数／193点
印 刷 物／チラシＡ４判　ポスターＡ１判
図録Ａ５判（120頁）

チラシ　表

チラシ　裏

図録　表紙

趣旨・総括

歌人であり、富山の文化そのものである人――
久泉迪雄（ひさいずみ・みちお）。

技術者、数学･工学の教員、富山県立近代美術館（現･富山県美術館）副館長、高岡市美術館館長と、多彩な経歴を持ち、職藝学院の創設に携わり、富山県芸術文化協会、富山県歌人連盟をはじめ、数多くの文化団体の運営を支え続けてきました。幅広い関心と専門領域、類まれな行動力、誠実な人柄と人間的な魅力、なにより富山の自然と風土、文化を愛する歌人として、大伴家持の歌のこころを引き継ぎ、万葉集の故地に豊饒な文化が花開くことを願い、精力的に活躍しています。本展では、自然科学と文学の双方に通じ、美術、工芸に造詣深く、多くの文学者、美術家との出会いを通して富山の教育と文化の発展に力を尽くしてきたその知の体系を探り、富山の文化の過去と現在を俯瞰し、その未来を展望することを目指しました。

会場では、第一章として、高岡市美術館、富山県美術館所蔵の、思い出深い富山ゆかりの作家による絵画作品を久泉迪雄の言葉とともに紹介しました。第二章では、書斎に大切に保存されてきた100点以上におよぶ書画や書簡を、作家たちとの出会いの物語とともに紹介しました。第三章では、多彩な仕事に関わってきた足跡を、自筆資料や著作の展示とともに、自身の短歌や文章、写真とともにたどる年譜として構成しました。あわせて､書斎をビデオカメラで撮影した映像（高志の国文学館撮影、2021年）を上映しました。また、本企画展の図録として『久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”』（桂書房、2021年）を発行しました。

会期中には、劇団ＳＣＯＴを主宰する演出家の鈴木忠志氏による記念講演、高校の教え子である劇団文芸座俳優の谷井美夫氏による朗読とショパンの楽曲のピアノ演奏による朗読と音楽の集いなどを開催しました。また、短歌同人誌『綺羅』を主宰する久泉氏に敬意を表し、エントランスロビーにて、企画展開催期間中、富山の文芸同人誌等の展示、販売を行う「文芸同人誌プチマルシェ！」（主催・公益財団法人富山県文化振興財団､共催･高志の国文学館）を開催しました。

展示室入り口　左は歌集『諷詠三百六十五日』所収の短歌を掲示して紹介

展示室概観　左右の壁面に富山県美術館、高岡市美術館所蔵の絵画作品を展示

写真と短歌でたどる年譜（右）と書斎映像（正面）

□関連行事

① 記念講演

開催日	講　師	演　題	会　場	参加者数
2月21日（日）	鈴木　忠志　氏 （演出家、劇団 SCOT 主宰） 杉田　欣次　氏 （聞き手／隠し文学館　花ざかりの森　館長）	富山の文化の受容力―久泉迪雄の仕事を契機として	当館研修室101および当館ライブラリーコーナー（パブリック・ビューイング）	68名 （定員総数100名）

② 朗読と音楽の集い

開催日	出　演	作　品	会　場	参加者数
3月14日（日）	谷井　美夫　氏（劇団「文芸座」俳優） 戸島　園恵　氏（ピアノ）	久泉迪雄エッセイ集『窓明かり』（桂書房）他より	当館ライブラリーコーナー	49名 （定員50名）

③ 文芸サロン

開催日	話題提供者、出席者	テーマ・作　品	会　場	参加者数
3月21日（日）	米田　憲三　氏（話題提供） 池田　瑛子　氏 中西　進　館長 久泉　迪雄　氏 吉田　泉　氏	久泉迪雄の作歌活動の軌跡― 久泉迪雄歌集『塔映』 （角川書店 1990年）より	当館研修室101	28名 （定員30名）

主催　日本ペンクラブ富山の会　　共催　高志の国文学館

④ 上映会

開催日	作　品	会　場	参加者数
2月13日（土） 3月 7日（日） 3月20日（土）	久泉迪雄インタビュー映像～人との出会いを大切に（高志の国文学館、2020年）	当館ライブラリーコーナー	14名 9 名 18名 （定員各54名）

⑤ 担当学芸員による展示解説（スライド・ビュー）

【開催日】 2月13日（土）、3月7日（日）、3月20日（土）

2. 資料概況

□資料数

		印刷物（書籍・雑誌・冊子等）	自筆資料				美術品	写真	映像・音響資料	調度品・愛用品	その他	計
			原稿	原画	書簡	色紙・短冊・軸・一枚もの、その他						
～H31/R1	購入	15,543	145	41	221	51	6	73	431	1	116	16,628
	寄贈	47,326	846	129	1,835	2,203	255	1,179	889	78	246	54,986
	製作	11	25	14	5	18	17	1	7	0	21	119
	小計（A）	62,880	1,016	184	2,061	2,272	278	1,253	1,327	79	383	71,733
R2	購入	466	0	0	1	0	1	7	16	1	2	494
	寄贈	668	1	0	125	30	577	3	1	7	1	1,413
	製作	0	3	0	0	5	0	0	0	0	0	8
	小計（B）	1,134	4	0	126	35	578	10	17	8	3	1,915
～H31/R1/R2合計		64,014	1,020	184	2,187	2,307	856	1,263	1,344	87	386	73,648

□主な新収蔵資料

寄　贈

作者等	資料名
渋沢栄一	書軸「春花落尽」
渋沢栄一	書軸「凰来楼即事」
島崎藤村	書画「千曲川旅情のうた」
林秋路	林秋路による絵画、書画、版画、版木等716点
佐竹美保	絵本『春の苑紅にほふ　はじめての越中万葉』挿絵原画19点
木村立嶽	掛軸「雀狗子図」
—	浅野総一郎喜寿祝いのブロンズ像等3点
翁久允	高堂亮吉宛封書
室生砺川	初校「句集 砺波野」

購　入

作者等	資料名
小寺菊子	草稿「野心を希ふ」（200字詰相馬屋製原稿用紙5枚）
川田順	歌幅「大鷲のおりかくろひしむかつやま…」
横山源之助	後藤寅之助宛封書
高島高	『句集 鷹』（高島高署名入り）（文学國土社、1949年刊）
マーガレット・E・アームストロング	『小鳥のさゝやき VOICES OF THE BIRDS』（教文館出版部、1926年刊）
—	『詩原』第1巻第9号（赤塚書房、1940年刊）
—	『詩原』第2巻第4号（赤塚書房、1941年刊）
—	『日本詩壇』第8巻第1号（日本詩壇発行所、1940年刊）
—	『詩人時代』第5巻第9号 通巻第53号（現代書房、1935年刊）
—	報知映画賞トロフィー 昭和61年度「コミック雑誌なんかいらない!」最優秀作品賞・邦画部門

3. 教育・普及事業

令和２年度は、延期としていた新元号「令和」記念事業の講演会を開催したほか、文学講座、サブカルチャー講座、ライブラリーコーナーなどを活用した音楽イベントなど、多彩なイベントを実施しました。

新元号「令和」記念事業

□講演会「家持のまなざし―富山の風土を見つめる―」

開催日／令和２年９月５日㈯
場　所／高岡文化ホール
参加者／341名（定員350名）

中西館長による講演会を高岡で開催しました。
（当初令和２年３月29日（日）に予定したものを延期。）

大伴家持生誕1300年記念事業

□資料集『家持を伝える―歌い継がれ、語り継がれる越中の家持』

大伴家持生誕1300年を記念して、大伴家持の資料集『家持を伝える―歌い継がれ、語り継がれる越中の家持』を出版しました。

高志の国文学館館長　中西進による書下ろしコラム「万葉集の歌その後」を６篇収録しています。

大伴家持が越中で詠んだ223首の歌を、現代語訳とともに掲載しています。

１首ごとに後世の歌集などに伝えられた家持の歌を並記するとともに、越中およびその周辺地域に伝わる家持関連の伝承を紹介（地図付き）しています。

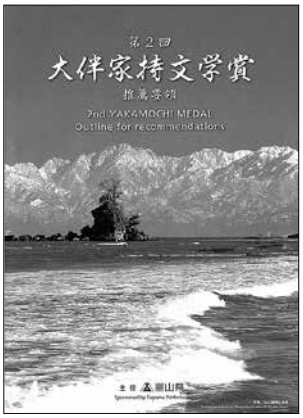
発行日／令和２年４月６日（月）
価　格／定価１,800円＋税

□第2回大伴家持文学賞及び第2回高志の国詩歌賞（一部延期）

越中において数々の秀歌を生んだ大伴家持の生誕1300年を記念して、2017年に、世界のすぐれた詩人の業績を顕彰する大伴家持文学賞及び富山ゆかりの詩歌を対象とした高志の国詩歌賞を創設し、２回目の実施をしました。

新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、当初の日程での選考会の開催や、受賞者をお迎えしての贈呈式の開催は困難と判断し、第２回大伴家持文学賞の受賞者の発表及び贈呈式は令和３年度に日程を延期しました。

第２回高志の国詩歌賞については、新潟県出身の歌人、笠木拓氏に決定しましたが、贈呈式は令和３年度に延期開催する第２回大伴家持文学賞贈呈式に併せて実施することとしました。



笠木　拓　氏
撮影：えはらあい

□高校生のための令和万葉塾（新型コロナウイルスの影響により中止）

県内の高校生に対して越中万葉・大伴家持の普及活動を行うため、講演の実施を予定していました。

□令和の越中万葉―中学生短歌講座―（新型コロナウイルスの影響により中止）

県内の中学生を対象に、富山県歌人連盟の方々を講師にお迎えし、「生活」・「自然」等をテーマに短歌を創作する授業を予定していました。

開催日	場　所
中止	入善町立入善西中学校
中止	魚津市立西部中学校
中止	南砺市立井口中学校

その他のイベント

□観桜の集い2020（新型コロナウイルスの影響により中止）

朗読、洋舞や日舞、音楽演奏などのステージ発表のほか、文学館の研修室で活動している芸術文化団体による作品展示を予定していました。

□読書感想文サポート講座

開催日／令和２年８月２日㊐
場　所／高志の国文学館研修室101

「原稿用紙がうまらない」、「何を書けばいいかわからない」といった声にお応えするため、小学校中学年及び低学年を対象に、読書感想文の書き方講座を実施。

今回は、富山県教育委員会西部教育事務所指導主事の阿尾美晴先生と、富山大学人間発達科学部・人文学部の学生の指導のもと、一人ひとりに丁寧に支援しました。

講　座	対象図書		参加者数
小学校中学年向け講座	「青いあいつがやってきた⁉」（文研出版）	松井ラフ・作 大野八生・絵	24 （定員30名）
小学校低学年向け講座	「山のちょうじょうの木のてっぺん」 （新日本出版社）	最上一平・作 有田奈央・絵	

□第７回サブカルチャー講座

開催日／令和２年８月８日㊏、８月22日㊏
会　場／高志の国文学館研修室101

芸能オフィスリレーションより講師を招聘して、アフレコチャレンジ教室及びイラスト体験教室を開催しました。

アフレコチャレンジ教室では、講師の方のお手本の後、グループごとに分かれて配役や台本の読み合わせを行い、その後、実際の映像に合わせて吹き替えを行いました。

イラスト体験教室では、絵を描くためのノウハウを学び、キャラクターデザインを体験しました。

開催日	講　座	参加者数
8／8（土）	アフレコチャレンジ教室	21（定員30名）
8／22（土）	イラスト体験教室	25（定員30名）

□高志プロジェクトの実施

開催日／令和２年９月６日㊐
会　場／高志の国文学館研修室101

平成25年度より、富山県ゆかりの文学や郷土の研究を行うグループや個人を公募・選考し、優れた者に奨励金を交付する「高志プロジェクト」を行っています。これは、富山県の風土や歴史、文化をより深く調査・研究し、発信することにより、郷土の文化や魅力を再認識し、次世代へ継承することを目的としたもので、令和２年度には３者（団体）が選ばれ、認定証交付式が実施された。あわせて前年度認定者による研究成果発表会も行いました。

【令和２年度高志プロジェクト認定者】

	代表者氏名	研究課題名
1	On the Minatogawa　一般社団法人 林　美湖（氷見市　講師）	湊川の舟運を使ったイグサ製品の集積と流通について
2	加賀藩食文化史研究会 畑山　智史（東京都　大学講師、学芸員）	近世富山における水産資源の利用
3	橋本　裕之 （大阪府　元大学教授、権禰宜）	越中における中世前期の祭礼芸能、その痕跡を探る

□朗読と音楽の夕べ2020

９月から11月にかけて、県内アナウンサーによる富山県ゆかりの文学作品などの朗読と、音楽演奏を組み合わせた「朗読と音楽の夕べ」を開催しました。

第１回では、開催中の企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」に合わせ、角野栄子著『魔女の宅急便』を北日本放送の柴田泰佳アナウンサーが朗読しました。

開催日	出演者	作　品	観覧者数
9 /12 （土）	朗読：柴田　泰佳　氏（北日本放送） 演奏：藤田　千穂　氏（ヴァイオリン） 大橋　俊希　氏（ギター）	角野　栄子 『魔女の宅急便』 （福音館書店）	62
9 /26 （土）	朗読：牧内　直哉　氏（ＦＭとやま / フリーランス） 演奏：安田　菜々子　氏（クラリネット） 廣瀬　鏡絵　氏（ピアノ）	山田　洋次 『悪童 小説 寅次郎の告白』 （講談社）	57
10/10 （土）	朗読：谷　優子　氏（富山テレビ放送） 演奏：福島　久美子　氏（マリンバ） 村上　麻理　氏（ピアノ）	柳原　三佳 『巻子の言霊　愛と命を紡いだ、ある夫婦の物語』 （講談社）	64
11/ 7 （土）	朗読：鹿沼　健介　氏（ＮＨＫ富山放送局） 演奏：一ノ瀬　浩子　氏（フルート） 村上　笑吏　氏（ピアノ）	ラフカディオ・ハーン 『東の国から』より 「夏の日の夢」 （講談社学術文庫）	55
11/28 （土）	朗読：尾島　早都樹　氏（チューリップテレビ） 演奏：間部　栄司　氏（ピアノ）	吉本　ばなな 『キッチン』 （角川文庫）	49

□文芸サロン

日本ペンクラブ富山の会は､県民が深く文芸を愛し、さらに創作の歓びを求めるに至ることを期待して、広く県ゆかりの文芸人の協力を求めつつ、高志の国文学館において文芸サロンを開設しました。

主催は日本ペンクラブ富山の会、共催は高志の国文学館。日本ペンクラブ富山の会の会員および県ゆかりの文芸人が 1 名ずつ話題提供し、それに対して他の会員がコメント。その後、コメントをめぐって参加者と討論するという形で、令和元年度に引き続き開催しました。

開催日	話題提供者、課題図書	参加者数
6 /21(日)	中止	―
9 /20(日)	中西館長、『夜明け前』(島崎藤村、新潮文庫)	26(定員30名)
1 /17(日)	吉田泉氏、『青梅雨』(永井龍男、新潮文庫)	16(定員30名)
3 /21(日)	米田憲三氏、『塔映』(久泉迪雄、角川書店)	28(定員30名)

□観月の集い2020

開催日／令和２年10月４日㈰
会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／85名

令和２年10月４日（日)､中秋の名月の日にちなみ、「観月の集い2020」を開催しました。

ステージでは、渡邊ゆかり氏のチェロ演奏と日比あゆみ氏による「おくりびと」の朗読が行われた後、塚田尚吾氏によるピアノ演奏、最後に、伊藤哲哉氏の語り琵琶「耳なし芳一」が行われ聴衆を魅了しました。

その他､｢シェ･ヨシ｣コラボレーション企画として、シェ・ヨシの限定スイーツとコーヒーのセットを販売したほか、富山県華道連合会によるいけばなの展示も行われました。

□文学講座（特別講座） 座談会「芥川賞受賞作『首里の馬』を読む」

開催日／令和２年11月29日㈰
出席者／高山　羽根子　氏（芥川賞作家）
西田谷　洋　氏（富山大学人間発達科学部教授）
生田　美秋（高志の国文学館事業部長）
参加者／91名（定員100名）

富山県出身の高山羽根子氏が、『首里の馬』（新潮社）で第163回芥川龍之介賞を受賞されたことを記念し、同氏を招聘して受賞作『首里の馬』を読む座談会を開催しました。

高山羽根子氏（右）

□書道パフォーマンス

伝統文化としての書の本質を磨きながら、新しい書の魅力を探求し、新たな文化を創造することを目指して、書道パフォーマンスを開催しました。

作品は、企画展「久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”」（令和３年２月６日～３月27日）の開催中、エントランスに展示しました。

日　時	出　演	参加者数
12/19（土）	中止	―
1 /16（土）	富山県立富山高等学校書道部	関係者のみ

□高校生による朗読会（新型コロナウイルスの影響により中止）

高校生に日頃の練習の成果を発表いただくとともに、幅広い年代の方々に朗読の魅力と可能性を再発見していただくため、高校生による朗読会の開催を予定していました。

□ミュージアムコンサート

開催日／令和３年２月10日㈬
場　所／高志の国文学館ライブラリーコーナー
参加者／36名

県にゆかりのある若手演奏家の発表の機会を創出するとともに、県民の皆さんに、身近な場所で質の高い音楽鑑賞の機会を提供するため、美術館や歴史的建造物などを活用したミュージアムコンサートを開催しました。

演奏は増山理恵氏（フルート）、杉原夏海氏（フルート）、緒方里珠氏（フルート）、中川歩美氏（ピアノ）。

□令和2年度文学講座

令和２年度の文学講座は、「大学連携シリーズ」、「郷土と文化シリーズ」及び「越中万葉・詩歌シリーズ」を開催しました。

大学連携シリーズ　　上段は研修室での受講者数、（ ）内はオンライン受講者数

開催日	演　題	講　師	受講者数
7 / 4（土）	企画展関連講座 「ラフカディオ・ハーンとフランス文学」	富山大学人文学部教授 中島　淑恵　氏	20 （158）
7 /19（日）	絵本の中の文と絵	富山大学芸術文化学部講師 今淵　純子　氏	16 （16）
11/14（土）	手塚治虫とアニメーション	富山大学人間発達科学部教授 上山　輝　氏	21
12/ 6（日）	「上海帰りのリル」の文学誌	富山大学人文学部教授 齊藤　大紀　氏	25

郷土と文化シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
9 /13（日）	越中が生んだ測量技術者・石黒信由 ―その測量技術と時代背景―	富山県立大学工学部環境・ 社会基盤工学科准教授 星川　圭介　氏	31
10/11（日）	俳句をめぐる話 ―金尾梅の門と角川源義そして鎌倉文士―	エッセイスト　星槎大学教授 伊藤　玄二郎　氏	48
10/31（土）	江戸の漢詩人 市河寛斎とその詩	南山大学人文学部教授 西岡　淳　氏	32
11/ 8（日）	コロナ危機と青井忠治 ―戦後の危機をどう乗り越えたか―	経済ジャーナリスト （テレビ朝日ニュースデスク） 出町　譲　氏	39
12/12（土）	高島高　青き時代の詩	グラフィック・デザイナー 伊勢　功治　氏	51

越中万葉・詩歌シリーズ

開催日	演　題	講　師	受講者数
1 /30（土）	「三十六歌仙」の不思議 ―高志の国文学館所蔵『三十六人歌合』を起点に―	同志社女子大学特任教授 吉海　直人　氏	29
2 /28（日）	古代和歌と風景 ―幻影のリアリズム	宮城学院女子大学名誉教授 犬飼　公之　氏	44
3 /13（土）	木俣修歌集『高志』を読む ―富山の風土と短歌	歌人 黒瀬　珂瀾　氏	44

□映画パネル展

会　場／高志の国文学館ライブラリーコーナー

高志の国文学館では、富山県を舞台にした映画等、県ゆかりの映画の公開に合わせてライブラリーコーナーにおいてパネル展を開催。パネル展では、映画で使用された台本や映画紹介、ロケ地マップ、映画シーンのパネルなどを展示しました。

開催日／令和２年２月26日㈬～令和２年５月27日㈬
映画「もみの家」

開催日／令和２年12月２日㈬～令和３年４月８日㈭
映画「大コメ騒動」

開催日／令和３年１月28日㈭～令和３年３月７日㈰
映画「おもいで写眞」

エントランスロビー　展示風景

□「高志の国文学」情景作品コンクール

開催日／令和２年12月３日㈭～12月17日㈭
会　場／高志の国文学館エントランスロビー

このコンクールは、「ふるさと文学」に親しみ、郷土を一層深く理解しようとする機運を高めることを目的に、県内の中学校、義務教育学校（後期課程）、高等学校、高等専門学校（３年まで）、特別支援学校（中学･高等部）を対象に募集しました。今回は応募のあった1,331点（文芸675点、美術87点、写真569点）のなかから、入賞した59点を展示しました。

エントランスロビー　展示風景

□文学館教育・啓発アウトリーチ事業

著名な作品や富山ゆかりの作品のパネルを移動文学館として、小・中・高校等向けに貸し出しています。

令和２年度は新たに『万葉集』全体の紹介をする内容を作成したパネル、「令（うるわ）しき万葉の旅」を作成、貸し出しました。

4. 高志の国文学館友の会

高志の国文学館友の会は、文学館の開館に先立つ平成24年６月18日、「文学館の事業に基盤をおいて、ふるさと文学を中心とする幅広い芸術文化に関する活動を通して、多くの人々が生涯学習の機会を持ち、会員相互に親睦を深めるとともに、文学館と連携し、文学館の活動を広く支援していくことを目的」として設立されました。

令和２年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、主要イベントである県内バスツアー及び研修旅行を中止としましたが、文学館内レストラン「シェ・ヨシ」の店内飲食の制限に伴い、友の会入会時または更新時に配布しているドリンクサービス券でお菓子と引換えできるサービスを行いました。

会員数　474名（令和３年３月31日現在）

一般会員	333		
法人会員	12		
５年会員（個人）	113	５年会員（法人）	2
賛助会員（個人）	11	賛助会員（法人）	2
学生会員	1		

会　費

一般会員	2,000円
学生会員	1,000円
法人会員	20,000円
５年会員（個）	10,000円
５年会員（法）	100,000円
賛助会員	一口10,000円

特　典

・文学館ニュースや各種行事案内の配布
・文学館及び友の会主催行事への優先参加
・文学館が発行する図録等の割引購入
・文学館内レストランの飲み物代優待

令和２年度事業

【県内バスツアー】（中止）

・富山の自然と美術館を愉しむ
～黒部峡谷トロッコ電車・下山芸術の森発電所美術館～
令和２年８月下旬
黒部峡谷トロッコ電車、黒部川電気記念館など

・県内映画ロケ地訪問～富山の自然、文化施設巡り～
令和２年10月31日（土）
富山県［立山博物館］、眼目立山寺、大コメ騒動ロケ地など

【研修旅行】（中止）

「埼玉、東京文学ツアー～角川武蔵野ミュージアムと大相撲観戦朝乃山応援～」
令和２年９月25日（金）～26日（土）
江戸東京博物館、大相撲９月場所（両国国技館）、角川武蔵野ミュージアム、武蔵野坐令和神社、さいたま文学館など

「愛知・三重を巡る」
令和３年３月中旬
名古屋城、徳川美術館・名古屋市蓬左文庫、伊勢神宮・おかげ横丁、山口製紙は幾巻、本居宣長記念館など

理事会

令和２年４月20日（月）付け書面で実施
令和３年３月13日（土）付け書面で実施

Ⅲ　管理･運営

1．利用状況

⑴入館者数・観覧者数

区　分	会　期	日　数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者計	1日あたり
生誕170年　ラフカディオ・ハーンの共感力	R2.4.11～4.17 R2.5.11～7.5	54	9,767	1,213	826	2,039	38
国際アンデルセン賞受賞記念展 角野栄子の魔女	R2.7.26～ R2.9.13	44	12,218	4,469	3,707	8,176	186
米国アカデミー賞監督 滝田洋二郎 展	R2.9.20～ R2.11.30	62	14,966	2,451	2,232	4,683	76
久泉迪雄の書斎から― “悠かなり　富山の文化”	R3.2.6～ R3.3.27	41	9,249	1,251	1,025	2,276	56
常設展のみ		86	15,954		572	572	7
常設展入れ替え（ライブラリーのみ）							
合　計		287	62,154	9,384	8,362	17,746	62
休館日		78					

開館日数／287日　うち　臨時開館　1日（７月27日、８月11日）
休館日数／81日　うち　臨時休館　26日（新型コロナウイルス感染症対応によるもの：４月18日～５月10日、大雪によるもの：１月９日～１月11日）
開館時間／９時30分から18時まで（観覧受付は17時30分まで）
休 館 日／火曜日（祝日を除く）、祝日の翌日、年末年始（12月29日から１月３日）

⑵研修室の利用状況

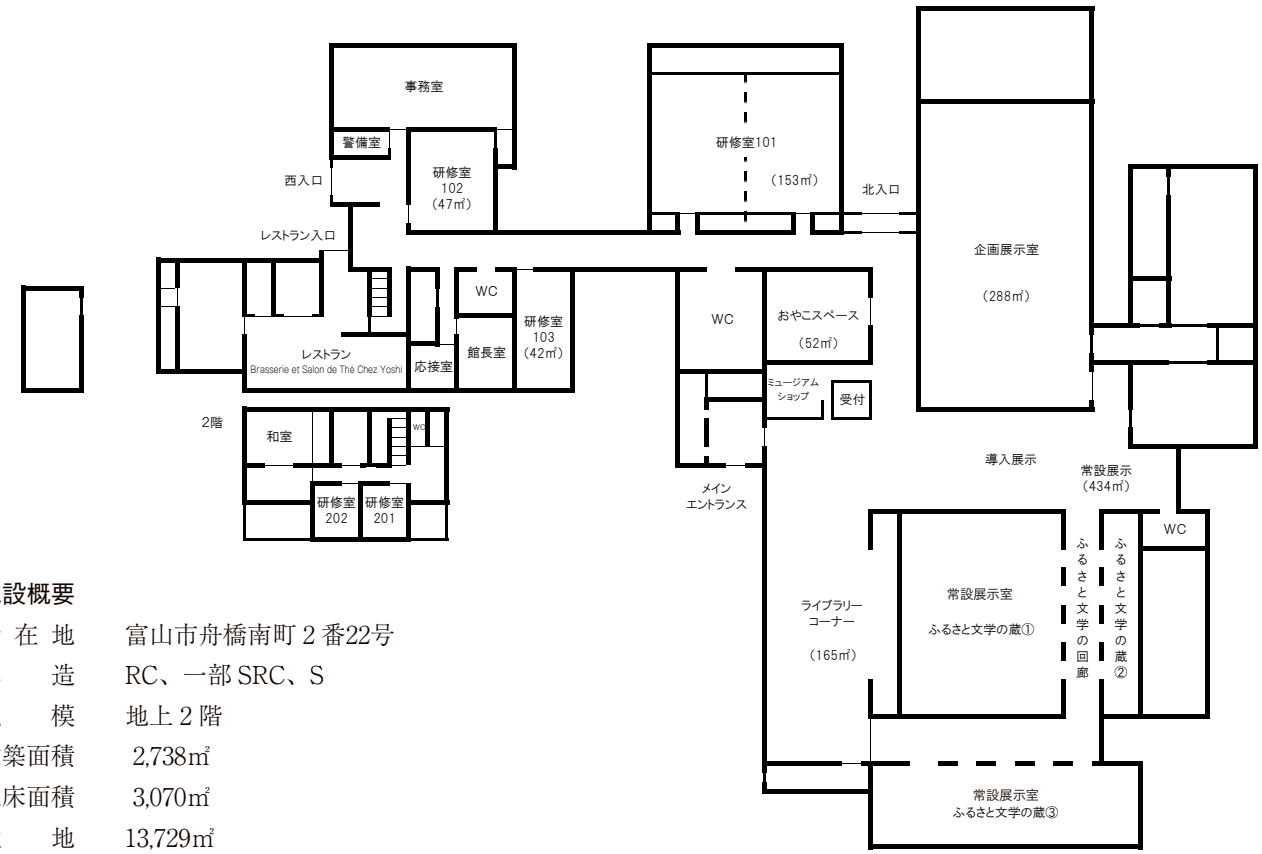
年	月	開館日数	休館日数	研修室101		研修室102		研修室103	
				件数	人数	件数	人数	件数	人数
2	4月	15	15	6	11	19	91	5	26
	5月	18	13	4	8	13	61	1	4
	6月	25	5	19	175	22	86	33	211
	7月	27	4	28	212	19	73	31	208
	8月	28	3	31	403	24	114	25	158
	9月	25	5	9	184	22	78	38	251
	10月	27	4	22	519	23	86	30	202
	11月	26	4	21	233	21	75	33	218
	12月	24	7	14	210	17	79	30	215
3	1月	24	7	24	200	9	30	21	124
	2月	23	5	20	324	12	61	38	255
	3月	25	6	36	251	15	72	41	240
合　計		287	78	234	2,730	216	906	326	2,112

年	月	研修室201		研修室202		和　室		合　計	
		件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
2	4月	6	10	2	2	13	29	51	169
	5月	4	8	0	0	13	26	35	107
	6月	24	42	8	12	13	37	119	563
	7月	24	45	16	31	21	52	139	621
	8月	19	44	14	30	15	35	128	784
	9月	16	51	14	28	24	63	123	655
	10月	29	67	11	27	24	53	139	954
	11月	25	49	12	20	20	53	132	648
	12月	19	45	9	20	19	54	108	623
3	1月	11	13	2	6	14	38	81	411
	2月	21	45	7	14	25	73	123	772
	3月	20	42	11	20	21	61	144	686
合　計		218	461	106	210	222	574	1,322	6,993

⑶年度別利用状況

区　分	開館日数	入館者	企画展観覧者	常設展観覧者	観覧者合　計	1　日当たり	研修室利用	
							件数	人数
平成24年度	222	121,211	21,653	30,668	52,321	236	1,364	11,807
平成25年度	307	126,470	25,017	30,431	55,448	181	1,337	12,592
平成26年度	305	115,866	16,232	19,705	35,937	118	1,650	14,875
平成27年度	305	107,391	13,133	16,341	29,474	97	1,592	13,196
平成28年度	287	108,138	13,839	16,260	30,099	105	1,817	14,104
平成29年度	308	109,466	16,070	17,279	33,349	108	1,959	14,067
平成30年度	306	104,208	22,402	22,172	44,574	146	1,836	13,116
平成31年度･令和元年度	308	116,548	27,456	27,497	54,953	178	2,024	13,466
令和2年度	287	62,154	9,384	8,362	17,746	62	1,322	6,993
合　計	2,635	971,452	165,186	188,715	353,901	134	14,901	114,216

2. 施設の概要



施設概要

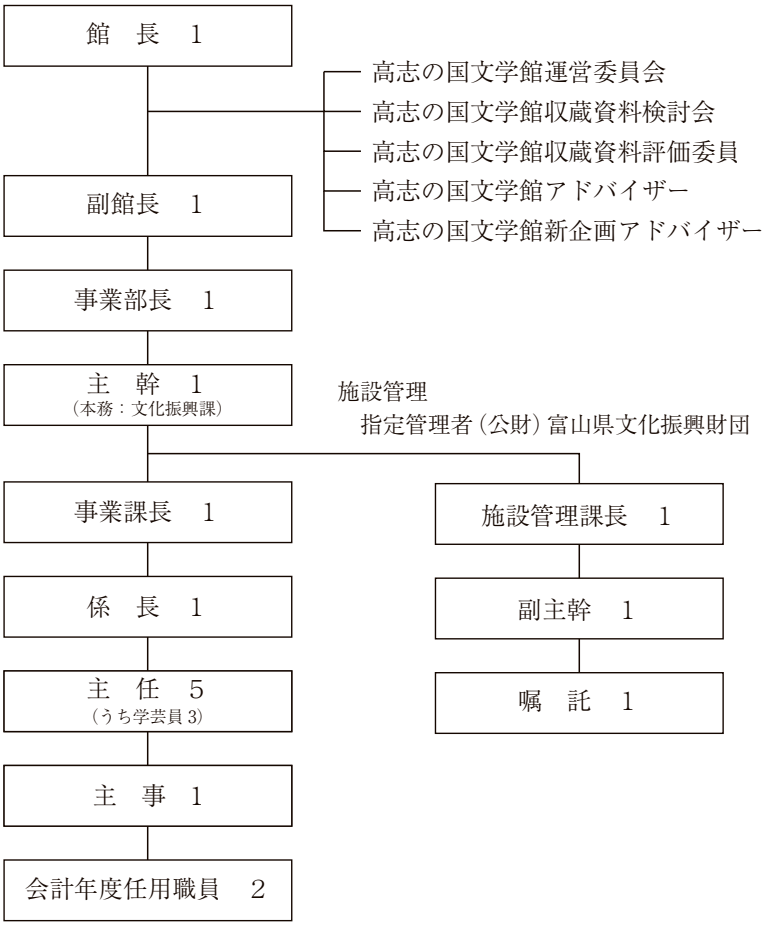
所 在 地　富山市舟橋南町２番22号
構　　造　RC、一部 SRC、S
規　　模　地上２階
建築面積　2,738㎡
延床面積　3,070㎡
敷　　地　13,729㎡
設　　計　シーラカンスアンドアソシエイツ
工事施工　日本海建興、酒井建設、辻建設、乃村工藝社　ほか
総 工 費　1,947,135,080円
工　　期　起工　平成23年７月４日
　　竣工　平成24年７月３日

受賞等の記録

全建賞	一般社団法人全日本建設技術協会	平成25年６月28日
中部建築賞	中部建築賞協議会	平成25年12月11日
日本建築学会作品選奨	一般社団法人日本建築学会	平成26年５月30日
第44回富山県建築賞	富山県建築賞協議会	平成26年１月24日
JIA 優秀建築賞	公益社団法人日本建築家協会	平成27年４月24日
うるおい環境とやま賞	富山県	平成27年11月25日
ＢＳＣ賞	一般社団法人日本建設業連合会	平成28年11月24日

3. 機構

令和3年3月31日現在



□指定管理者の指定状況

平成24年７月～平成26年度	（公財）富山県文化振興財団
平成27年度～平成31年度	（公財）富山県文化振興財団
令和２年度～令和６年度	（公財）富山県文化振興財団

□職員名簿

職	氏　名	備　考
館　長	中　西　　進	
副館長	森　田　真　己	
事業部長	生　田　美　秋	
主　幹	朝　山　弘　康	本務　文化振興課主幹
事業課長	永　井　　清	
係　長	佐　藤　陽　子	兼務　文化振興課
主　任	旦　尾　紘　一	
主　任	綿　引　香　織	学芸員
主　任	大川原　竜　一	学芸員
主　任	小　林　加代子	学芸員
主　任	林　　優美子	兼務　文化振興課
主　事	髙　瀬　慎之介	兼務　文化振興課
会計年度任用職員	山　田　優　子	
会計年度任用職員	石　井　　花	
施設管理課長	広　田　英　貴	
副主幹	高　木　隆　行	
嘱　託	魚　屋　美智乃	

4. 組織

令和3年3月31日現在
（高志の国文学館運営委員会は令和3年3月3日現在）

□高志の国文学館運営委員会委員

氏　　名	役　職　等
荒井　智子	富山県ＰＴＡ連合会副会長
上田　洋一	富山県歌人連盟会長
上野　　誠	奈良大学文学部教授
梅田ひろ美	（株）ユニゾーン代表取締役会長
岡崎　佳子	富山県小学校長会理事
木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
瀬川　ゆき	世田谷文学館学芸部長
髙木　繁雄	富山県商工会議所連合会会長　（株）北陸銀行特別参与
立野　幸雄	射水市大島絵本館長
飛田　久子	富山県婦人会副会長
中井　敏郎	富山商工会議所常議員 東亜薬品（株）代表取締役会長
野村しのぶ	公募委員（フラワーアレンジメント講師）
本江　孝一	富山県高等学校校長協会長
マリ　クリスティーヌ	富山大学客員特別研究員
村上　博俊	富山県商工会議所青年部連合会長
米田　大樹	日本青年会議所富山ブロック協議会長

□高志の国文学館収蔵資料検討会委員

氏　　名		役　職　等
委　　員	木下　　晶	（一社）富山県芸術文化協会会長
	中村　只吾	富山大学人間発達科学部准教授
	中井　敏郎	東亜薬品（株）代表取締役会長
	久泉　迪雄	富山県歌人連盟顧問
	山崎　一穎	全国文学館協議会会長

□高志の国文学館アドバイザー

氏　　名	役　職　等
篠田　正浩	映画監督
滝田洋二郎	映画監督
藤子不二雄Ⓐ	漫画家

□高志の国文学館新企画アドバイザー

氏　　名	役　職　等
太田麻衣子	クリエイティブ・ディレクター
菓子　　浩	ドラマプロデューサー
柏原光太郎	文芸宣伝
高成麻畝子	在京テレビ局・海外事業部
本木　克英	映画監督
山内マリコ	作家

Ⅳ 資　　料

沿革

年　月　日	事　　項
平成24年７月６日	開館
７月６日	開館記念展「大伴家持と越中万葉―風土とこだまする家持の心」開催
７月15日	入館者1万人達成
８月８日	**秋篠宮同妃両殿下ご夫妻並びに佳子内親王殿下ご来館**
12月８日	開館記念展Ⅱ「富山が育んだ少年時代―小説・漫画・映画が描く疎開少年の長い道―」開催
平成25年２月３日	**入館者10万人達成**
３月20日	特別展「おおかみこどもの雨と雪―大自然に生きる母と子の物語―」開催
４月７日	写真展「入江泰吉と奈良を愛した文士たち」開催
５月26日	入館者15万人達成
７月７日	特別展「立山曼荼羅を文学する」開催
８月10日	特別展「辺見じゅんの世界」開催
10月10日	**入館者20万人達成**
10月18日	**高円宮妃殿下ご来館**
11月３日	中西進館長　文化勲章受章
11月17日	企画展「『世界のムナカタ』を育んだ文学と民藝―棟方志功の感応力」開催
12月14日	中西進館長　富山県特別栄誉賞授与式・文化勲章受章記念講演会　開催
平成26年３月20日	企画展「まんが家　藤子・Ｆ・不二雄のＳＦ（すこし・ふしぎ）」開催
４月６日	入館者25万人達成
４月26日	棟方志功未公開作品特別展示　開催
７月26日	企画展「風の盆　深奥の心をさぐる」開催
８月４日	**入館者30万人達成**
10月10日	ギャラリー展「竹久夢二展」開催
10月30日	企画展「川の文学―うつりゆく富山の歴史の中で―」開催
平成27年１月７日	ギャラリー展「「冷光文庫」展―富山におり立った「雪の女王」を訪ねて―」開催
１月28日	企画展「川の文学　美しきふるさと―富山の川をめぐる文学と美術の交響―」開催
３月13日	企画展「三禅定の旅―立山・白山・富士山をめぐる―」開催
５月20日	ギャラリー展「豊かなイマジネーション　妖怪がひそむ富山の民話」開催
５月29日	特別企画展「『田園発 港行き自転車』藤森兼明　挿絵原画展」開催
７月11日	企画展「あの日、青い空から―久世光彦の人間主義」開催
７月19日	**入館者40万人達成**
９月９日	ギャラリー展「「海」物語　憧れ・神秘・畏怖～海づくり大会によせて～」開催
10月18日	企画展「山の湯の詩情―田中冬二へのいざない」開催
平成28年１月23日	企画展「松本清張を魅惑した北陸―ミステリー文学でたどる―」開催
３月21日	企画展「夢二の旅―たまき・翁久允とのゆかりにふれつつ」開催
６月３日	ギャラリー展「富山映画展―スクリーンの中の人と風景―」開催
７月３日	**入館者50万人達成**
７月９日	企画展「面白い箱！アニメづくりのスタジオの中へ」開催
10月29日	企画展「浅野総一郎―九転十起の生涯」開催
平成29年１月14日	企画展「知られざる作家の世界―書簡から直筆原稿、書画まで」開催
３月19日	企画展「官人 大伴家持―困難な時代を生きた良心」開催
５月29日	**天皇皇后両陛下ご視察**
６月11日	企画展「上橋菜穂子と〈精霊の守り人〉」開催
同日	**入館者60万人達成**
７月23日	企画展「おわらと林秋路―風の盆の画家」開催
10月14日	特別展「宮本輝―人間のあたたかさと、生きる勇気と。」開催
12月16日	企画展「竹久夢二　音楽を描く」開催

年　月　日	事　項
平成30年３月18日	企画展「歌人 大伴家持―現代と響き合う詩心」開催
５月14日	**入館者70万人達成**
６月10日	企画展「没後20年 星野道夫の旅 Selection」開催
８月11日	企画展「里中満智子「愛」のテーゼ」開催
10月17日	特別展「堀田善衞―世界の水平線を見つめて」開催
平成31年１月６日	企画展「北の命の物語展 倉本聰と点描画」開催
３月17日	企画展「家持発見―響き合う詩歌と絵画」開催
４月27日	**入館者80万人達成**
令和元年５月25日	企画展「宮沢賢治　童話への旅」開催
７月27日	企画展「谷川俊太郎の宇宙」開催
10月６日	特別展「藤子不二雄Ⓐ展―Ⓐの変コレクション―」開催
令和２年１月19日	企画展「生誕110年　中島敦展」開催
２月16日	**入館者90万人達成**
４月11日	企画展「生誕170年　ラフカディオ・ハーンの共感力―発見、探求、そして発信へ」開催
７月26日	企画展「国際アンデルセン賞受賞記念展　角野栄子の魔女」開催
９月20日	企画展「米国アカデミー賞監督　滝田洋二郎 展」開催
令和３年２月６日	企画展「久泉迪雄の書斎から―“悠かなり 富山の文化”」開催

Ⅴ 関係法令

高志の国文学館条例

平成23年９月28日
富山県条例第41号
改正　平成24年６月29日条例第38号
平成26年３月26日条例第21号
平成28年３月25日条例第22号
平成31年３月15日条例第９号

平成30年３月26日条例第19号

高志の国文学館条例を公布する。

高志の国文学館条例

（趣旨）

第１条　この条例は、高志の国文学館の設置及び管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　富山県の自然及び風土の中ではぐくまれた文学作品その他の文学関係資料を紹介し、文学に関する県民の知識を深め、教養の向上を図るとともに、県民自らが親しみ、学び、創造し、交流することができるよう、県民に文学を中心とする文化活動の場を提供し、もって教育、学術及び文化の振興並びに心豊かな地域社会の形成に寄与するため、高志の国文学館（以下「文学館」という。）を設置する。

（位置）

第３条　文学館は、富山市に置く。

（事業）

第４条　文学館は、次に掲げる事業を行う。

⑴　文学に関する書籍、原稿、文献、写真、フィルムその他の資料及び文学者に関する資料（以下「文学資料」という。）を収集し、保管し、及び展示し、並びに閲覧に供すること。

⑵　文学資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、及び研修室等を設置してこれを利用させること。

⑶　文学に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を開催すること。

⑷　文学資料に関する専門的な調査研究を行うこと。

⑸　文学資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

⑹　前各号に掲げるもののほか、文学館の設置の目的を達成するために必要な事業

（指定管理者による管理）

第５条　知事は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって知事が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に文学館の管理を行わせるものとする。

（指定管理者が行う業務）

第６条　前条の規定により指定管理者に行わせる管理の業務は、次に掲げる業務とする。

⑴　文学館の施設及び設備の維持管理に関する業務

⑵　第13条第１項の規定による専用使用の承認に関する業務

⑶　第15条第１項に規定する使用料の徴収に関する業務

⑷　その他文学館の管理に関して知事が必要と認める業務

（休館日）

第７条　文学館の休館日は、次に掲げる日とする。ただし、知事は、特に必要があると認めるときは、休館日以外の日に休館し、又は休館日に開館することができる。

⑴　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たる場合を除く。）

⑵　休日の翌日（その日が日曜日、土曜日又は休日に当たる場合は、その日後においてその日に最も近いこれらの日以外の日）

⑶　12月29日から翌年の１月３日までの日

（平28条例22・一部改正）

（開館時間）

第８条　文学館の開館時間は、午前９時30分から午後６時までとする。ただし、研修室及び和室の開館時間については午前９時30分から午後９時まで、駐車場の開館時間については午前９時から午後９時30分までとする。

２　前項の規定にかかわらず、知事は、特に必要があると認めるときは、開館時間を臨時に変更することができる。

（平24条例38・平28条例22・一部改正）

（入館の拒否及び制限）

第９条　指定管理者は、文学館に入館しようとする者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、入館を拒否することができる。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をするおそれがあるとき。

⑵　施設、設備又は文学資料（次条第１項第２号において「施設等」という。）を汚損し、又は損傷するおそれがあるとき。

２　指定管理者は、文学館の管理上必要があると認めるときは、入館を制限することができる。

（遵守事項等）

第10条　文学館に入館した者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

⑴　他の入館者に迷惑となる行為をしないこと。

⑵　施設等を汚損し、又は損傷しないこと。

⑶　指定された場所以外の場所で喫煙又は飲食をしないこと。

⑷　その他知事が特に指示した事項

2　知事は、文学館に入館した者が前項の規定に違反したときは、その者に退館を命ずることができる。

（常設展示観覧料及び企画展示観覧料）

第11条　常設展示室において展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の常設展示観覧料を納めなければならない。ただし、企画展示観覧料を納める者は、この限りでない。

2　企画展示室において特別に展示している文学資料を観覧しようとする者は、別表第１に定める金額の企画展示観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（特別観覧）

第12条　文学館に展示し、又は保管している文学資料について学術研究等のために模写、模造、撮影等をしようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

2　前項の承認には、文学資料の管理上必要な条件を付することができる。

3　第１項の承認を受けた者は、別表第１に定める金額の特別観覧料を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（専用使用の承認等）

第13条　文学館の施設のうち別表第１に掲げるものを専用して使用しようとする者は、あらかじめ、指定管理者の承認を受けなければならない。承認を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2　指定管理者は、前項の承認を受けようとする者が第９条第１項各号のいずれかに該当すると認めるとき、その他文学館の設置の目的を達成するについて不適当と認めるときは、前項の承認をしないものとする。

3　第１項の承認には、文学館の管理上必要な条件を付することができる。

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料及び駐車料金）

第14条　前条第１項の承認を受けた者（以下「専用使用者」という。）は別表第１に定める金額の施設使用料を、駐車場を使用する者は別表第２に定める金額の駐車料金を納めなければならない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の徴収方法）

第15条　常設展示観覧料、企画展示観覧料及び特別観覧料並びに施設使用料及び駐車料金（以下「使用料」という。）は、知事の発行する納入通知書により徴収する。ただし、これにより難い場合においては、口頭又は掲示の方法により現金で徴収する。

2　使用料は、前納とする。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（平24条例38・一部改正）

（使用料の減免）

第16条　知事は、特別の理由があると認めるときは、使用料を減免することができる。

（使用料の還付）

第17条　既に徴収した使用料は、還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

（専用使用の承認の取消し等）

第18条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第13条第１項の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

⑴　専用使用者がこの条例又はこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。

⑵　専用使用者が偽りその他不正の手段により第13条第１項の承認を受けた事実が明らかとなったとき。

⑶　専用使用者が第13条第３項の規定による承認の条件に違反したとき。

⑷　その他文学館の管理上特に支障があると認められるとき。

（高志の国文学館運営委員会）

第19条　文学館に高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2　委員会は、文学館の運営に関し知事の諮問に応ずるとともに、知事に対し意見を述べるものとする。

第20条　委員会は、委員20人以内で組織する。

2　委員の任期は、２年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3　委員は、再任されることができる。

（平28条例22・一部改正）

第21条　委員会に、委員長及び副委員長１人を置く。

2　委員長及び副委員長は、それぞれ委員が互選する。

3　委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4　副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

（規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附　則

（施行期日）

1　この条例は、平成23年10月１日から施行する。ただし、第５条から第21条まで、附則第２項及び別表第１の規定は、規則で定める日から施行する。

（平成24年規則第40号で附則第１項ただし書に規定する規定は、平成24年７月６日から施行）

（平24条例38・一部改正）

（施設使用料の特例）

2　前項の規則で定める日から起算して２年を経過する日までの間における別表第１の４の規定の適用については、同表中「4,350円」とあるのは「2,900円」と、「860円」とあるのは「570円」と、「3,890円」とあるのは「2,590円」と、「770円」とあるのは「510円」と、「1,390円」とあるのは「930円」と、「280円」とあるのは「190円」とする。

（平24条例38・平26条例21・一部改正）

附　則（平成24年条例第38号）

（施行期日）

1　この条例は、平成24年７月６日から施行する。

（経過措置）

2　この条例の施行の日から平成25年３月31日までの間における第６条の規定の適用については、同条第１号中「施設」とあるのは「施設（駐車場を除く。）」と、同条第３号中「使用料」とあるのは「使用料（駐車料金を除く。）」とする。

附　則（平成26年条例第21号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成26年４月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第８条、第12条、第15条、第19条、第20条、第33条又は第34条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附　則（平成28年条例第22号）

この条例は、平成28年４月１日から施行する。

附　則（平成30年条例第19号）

この条例は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成31年条例第９号）抄

（施行期日）

1　この条例は、平成31年10月１日から施行する。

（高志の国文学館条例等の一部改正に伴う経過措置）

3　この条例の施行の際現に第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正前のそれぞれの条例の規定により承認を受けている者の当該承認に係る使用料又は手数料の額については、第９条、第13条、第16条、第20条、第21条、第35条又は第36条の規定による改正後のそれぞれの条例の規定にかかわらず、なお従前の例による。

別表第１（第11条、第12条、第13条、第14条関係）

（平24条例38・旧別表・一部改正、平26条例21・一部改正、平30条例19・平31条例９・一部改正）

1　常設展示観覧料

区　分	金額（１人１回につき）
個人	200円
20人以上の団体	160円

備考　小学校の児童、中学校の生徒、高等学校の生徒、大学の学生及びこれらに準ずる者に係る常設展示観覧料は、無料とする。

2　企画展示観覧料

１人１回につき1,500円の範囲内で知事が定める金額

3　特別観覧料

１回１点につき4,200円の範囲内で知事が定める金額

4　施設使用料

区　分		使用時間３時間までの金額	超過時間１時間の金額
研修室１	全部使用	14,420円	3,610円
	２分の１使用	7,170円	1,790円
研修室２		4,430円	880円
研修室３		3,960円	780円
研修室４		1,420円	290円
研修室５		1,420円	290円
和室		1,700円	340円
附属設備		実費を勘案して知事が定める額	

備考

1　使用時間１時間未満の端数は、１時間として計算する。

2　使用時間を短縮した場合においても、施設使用料は、減額しない。

別表第２（第14条関係）

（平24条例38・追加、平31条例９・一部改正）

種　別	単　位	金　額
基本料金	入場した時から１時間までにつき１台	330円
加算料金	入場した時から１時間を超える時間30分までごとにつき１台	110円

高志の国文学館条例施行規則

平成24年７月５日
富山県規則第43号
改正　平成28年３月31日規則第32号

高志の国文学館条例施行規則を次のように定め、公布する。

高志の国文学館条例施行規則

（趣旨）

第１条　この規則は、高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

（入室時間）

第２条　高志の国文学館（以下「文学館」という。）の常設展示室及び企画展示室に入室できる時間は、午前９時30分から午後５時30分までとする。ただし、指定管理者は、特に必要があると認めるときは、知事の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

（平28規則32・一部改正）

（特別観覧の承認申請）

第３条　条例第12条第１項の規定により文学館に展示し、又は保管している文学資料（条例第４条第１号に規定する文学資料をいう。第６条及び第９条において同じ。）の模写、模造、撮影等（以下この条において「特別観覧」という。）の承認を受けようとする者は、特別観覧をしようとする日の７日前までに、高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書（様式第１号）を知事に提出するものとする。

（平28規則32・一部改正）

（専用使用の承認申請）

第４条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けようとする者は、高志の国文学館施設専用使用承認申請書（様式第２号）を指定管理者に提出するものとする。

２　前項の申請書は、専用して使用しようとする日（次条第１項において「専用使用日」という。）の３月前から前日までの間に提出するものとする。ただし、指定管理者が文学館の施設の使用に支障がないと認めるときは、この限りでない。

（専用使用の変更）

第５条　条例第13条第１項の規定により文学館の施設の専用使用の承認を受けた者（次項及び第８条において「専用使用者」という。）は、専用使用日を変更しようとするときは、専用使用日の前日までに指定管理者の承認を受けるものとする。

２　専用使用者は、やむを得ない理由により当該承認に係る時間を超えて文学館の施設を使用する必要があるときは、あらかじめ指定管理者の承認を受けるものとする。

（平28規則32・一部改正）

（観覧料の減免）

第６条　条例第16条の規定により常設展示観覧料又は企画展示観覧料（以下この条において「観覧料」という。）を減免することができる場合及びその場合における減免の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

⑴　条例別表第１の１の表の備考に規定する者又は幼稚園の幼児の引率者が教育課程に基づく教育活動又は社会教育関係団体の教育活動として、常設展示室において展示している文学資料又は企画展示室において特別に展示している文学資料（以下この項において「常設展示等」という。）を観覧する場合　観覧料の全額

⑵　児童福祉法（昭和22年法律第164号）第７条第１項に規定する児童福祉施設に入所し、又は通所している者及びこれらの引率者が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑶　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人（当該交付を受けた者１人につき１人に限る。以下この項において同じ。）が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑷　療育手帳制度について（昭和48年９月27日付け厚生省発児第156号厚生事務次官通知）に基づき療育手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑸　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその付添人が常設展示等を観覧する場合　観覧料の全額

⑹　70歳以上の者が常設展示室において展示している文学資料を観覧する場合　常設展示観覧料の全額

⑺　前各号に掲げるもののほか、知事が特別の理由があると認める場合　知事が必要と認める額

２　前項第１号又は第２号に掲げる場合における観覧料の減免は高志の国文学館観覧料減免申請書（様式第３号）を知事に提出することにより、同項第３号から第５号までに掲げる場合における観覧料の減免は身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の確認により、同項第６号に掲げる場合における常設展示観覧料の減免は同号に該当することを証するに足りる書類の確認により、同項第７号に掲げる場合における観覧料の減免は別に定めるところにより行うものとする。

（平28規則32・追加）

（駐車場を使用できる自動車）

第７条　文学館の駐車場を使用することができる自動車は、道路交通法（昭和35年法律第105号）第３条の普通自動車（積載物又は取付物を含めて、長さ５メートル以下、幅２メートル以下、高さ2.2メートル以下のものに限る。）とする。

（平28規則32・旧第６条繰下）

（原状回復及び点検）

第８条　専用使用者は、その使用を終えたときは、直ちに施設及び設備を原状に復するとともに、指定管理者の点検を受けるものとする。

（平28規則32・旧第７条繰下）

（施設等の汚損又は損傷の届出）

第９条　文学館の入館者は、施設、設備又は文学資料を汚損し、又は損傷したときは、直ちにその旨を指定管理者に届け出て、その指示に従うものとする。

（平28規則32・旧第８条繰下）

（高志の国文学館運営委員会）

第10条　高志の国文学館運営委員会（以下「委員会」という。）は、委員長が招集する。

２　委員会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

３　委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

（平28規則32・旧第９条繰下）

（細則）

第11条　この規則に定めるもののほか、文学館の管理及び運営に関し必要な事項は、知事が定める。

（平28規則32・旧第10条繰下）

附　則

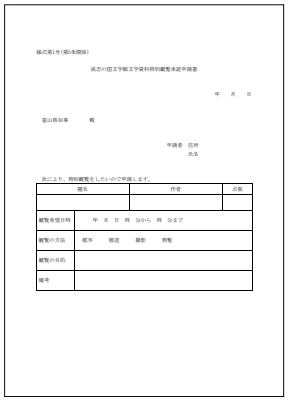
この規則は、平成24年７月６日から施行する。

附　則（平成28年規則第32号）抄

（施行期日）

１　この規則は、平成28年４月１日から施行する。

様式第１号（第３条関係）


様式第1号(第3条関係)

高志の国文学館文学資料特別観覧承認申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

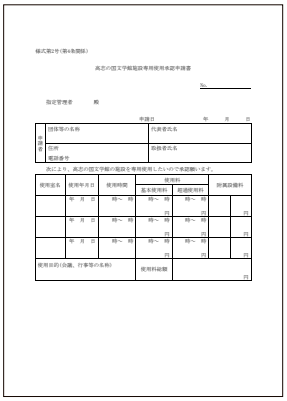
申請者　住所
氏名

次により、特別観覧をしたいので申請します。

題名	作者	点数

観覧希望日時	年　月　日　時　分から　時　分まで
観覧の方法	閲覧　　模造　　撮影　　熟覧
観覧の目的	
備考	

様式第２号（第４条関係）


様式第2号(第4条関係)

高志の国文学館施設等専用使用承認申請書

No.

指定管理者　　殿

申請日　　年　　月　　日

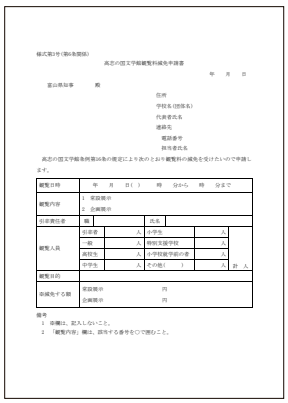
申請者	団体等の名称
	代表者氏名
	住所
	担当者氏名
	電話番号

次により、高志の国文学館の施設を専用使用したいので承認願います。

使用室名	使用年月日	使用時間	使用料 基本使用料	使用料 超過使用料	附属設備料	
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円		円
	年　月　日	時～　時	時～　時 円	時～　時 円		円

使用目的(会議、行事等の名称)	使用料総額	円

様式第３号（第６条関係）


様式第3号(第6条関係)

高志の国文学館観覧料減免申請書

年　月　日

富山県知事　　殿

住所
学校名(団体名)
代表者氏名
連絡先
電話番号
申告者氏名

高志の国文学館条例第16条の規定により次のとおり観覧料の減免を受けたいので申請します。

観覧日時	年　月　日(　)　時　分から　時　分まで						
観覧内容	1　常設展示 2　企画展示						
引率責任者	職		氏名				
観覧人員	引率者	人	小学生	人			
	一般	人	特別支援学校	人			
	高校生	人	小学校就学前の者	人			
	中学生	人	その他(　)	人	計　人		
観覧目的							
免減免する額	常設展示　　円 企画展示　　円						

備考
1　※欄は、記入しないこと。
2　「観覧内容」欄は、該当する番号を○で囲むこと。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

平成24年７月５日
富山県訓令第10号

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程を次のように定め、公表する。

高志の国文学館の職員の勤務時間に関する規程

（趣旨）

第１条　この訓令は、県職員及び県費負担教職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例（昭和26年富山県条例第73号）第４条第１項及び富山県職員の勤務時間に関する規程（昭和27年富山県訓令第１号）第３条の規定に基づき、高志の国文学館の職員（知事の指定する者を除く。以下「職員」という。）の勤務時間に関し必要な事項を定めるものとする。

（勤務時間）

第２条　職員の勤務時間は、午前８時30分から午後５時15分までとする。

２　高志の国文学館長（以下「館長」という。）は、業務の状況により必要があると認めるときは、勤務時間を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

（週休日及び勤務時間の割振り）

第３条　館長は、職員の週休日を日曜日及び土曜日以外の日とすることができる。

２　職員の勤務時間の割振りは、館長が定める。

（休憩時間）

第４条　職員の休憩時間は、１時間とし、館長が勤務時間の途中に置く。

附　則

この訓令は、平成24年７月６日から施行する。

高志の国文学館の使用料の額について

平成24年７月５日
富山県告示第317号
改正 平成26年３月26日告示第148号
平成31年３月29日告示第169号

高志の国文学館の使用料の額について

高志の国文学館条例（平成23年富山県条例第41号）別表第１の４の表の知事が定める額は、次のとおりとし、平成24年７月６日から施行する。

品　名	単　位	金　額
ビデオプロジェクター（スクリーン付）	1式	2,980円
拡声装置（マイク付）	1式	2,540円

備考　この表に掲げる金額は使用時間３時間についての額とし、使用時間３時間未満の端数は３時間として計算する。

改正文（平成26年告示第148号）抄

平成26年４月１日から施行する。

改正文（平成31年告示第169号）抄

平成31年10月１日から施行する。

令和2年度 高志の国文学館 年報

令和４年２月25日発行
編　集　高志の国文学館
富山県富山市舟橋南町2-22
TEL 076-431-5492
印　刷　北日本印刷株式会社
発　行　高志の国文学館

※許可なく転載、複製することを禁じます。